

司会 山本 政弘(国立病院機構 九州医療センター HIV 診療担当医)

独立行政法人国立病院機構ネットワーク研究

HIV/AIDS 外来クリティカルパス研修会

1 HIV/AIDS 外来クリティカルパス作成の目的

古川 直美 国立病院機構 九州医療センター HIV 担当看護師

2 外来診療における診察と検査について

菊池 嘉 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター

3 外来診療におけるセルフケア支援について

島田 恵 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター
コーディネーターナース/看護支援調整官

意 図

わが国の HIV 感染者 / AIDS 患者(以下、患者)は 1 万人を超え、新規患者報告数も毎年最多を更新しており、先進諸国の中で抜きん出て患者増加が著しいという緊急事態に直面しております。このような中、わが国では平成 9 年からエイズ医療を政策医療に掲げ、エイズ拠点病院体制による診療ネットワークの充実を図りつつ、増加する患者の診療に努めて参りました。しかし、患者数には地域格差や病院格差が生じており、治療法の進歩によって療養期間が延長している患者の診療には、今後さらにネットワークを活用した診療が必要となります。そこで、診療経験が少ない施設や、コメディカルスタッフ等が十分に揃っていない施設でも、患者の診療を担う時代に備え、標準的な HIV 外来診療を行うためのツールとしてクリティカルパスの作成を試みました。今年度はこれまで 4 回の研修会によって改定を重ね、今回が最終回となります。このパスがネットワーク機能を充実させる一助にもなればと考えています。

対象・内容

HIV 外来診療の経験がない、あるいは少ない拠点病院や診療に意欲的な病院の医師、看護師、コメディカルスタッフの方々を対象に、外来診療における診察・検査、セルフケア支援の実際を具体的に紹介します。

当日、クリティカルパス・セット(CD-R 付き)を先着 200 名に配布予定

サテライトシンポジウム 2 12月2日 金 18:50~20:30 第3会場 市民会館 第5・6会議室

司会 池上千寿子 (特定非営利活動法人 ぷれいす東京 代表、
厚生労働省エイズ対策研究事業 主任研究者)

「HIV 感染予防の効果に関する研究」成果発表会
厚生労働科学研究費 (エイズ対策研究推進事業) 研究成果等普及啓発事業

知識から意識へ - HIV 予防介入の実践とその評価 -

1 新しい予防教育のストラテジー

池上千寿子 ぷれいす東京

2 HIV 陽性者による周囲への告知の影響に関する調査

生島 嗣 ぷれいす東京

3 ピアによる教材とその効果

徐 淑子 新潟県立看護大学

4 自治体による当事者性を生かした取組

兵藤 智佳 ぷれいす東京

趣 旨

『若者の性の健康』をテーマとする研究成果発表会。知識偏重型の予防啓発の限界が指摘されるいま、「地域との連携」をキーワードに新たな啓発の可能性について考える。研究成果を基に研究班と NPO 法人ぷれいす東京が開発、2006年春に完成予定の、映像を中心とした実践的パッケージ教材の一部を紹介。

主 催

財団法人エイズ予防財団

企画・運営

特定非営利活動法人ぷれいす東京

お問合せ先

特定非営利活動法人 ぷれいす東京 研究事業事務局 担当：吉田
電話：03-3361-8964、FAX：03-3361-8835、e-Mail：research@ptokyo.com

サテライトシンポジウム 3 12月3日土 9:00～12:30 リバーサイドホテル2F リバーホール

司会 木原 雅子 (京都大学大学院医学研究科 助教授、WYSH プロジェクト代表)

「中高生のエイズ予防教育 / 対策」WYSH プロジェクト

科学的エビデンスに基づく予防の導入

- 子どもを取り巻く人間的つながりの強化を目指して -

企画実施 木原 雅子 京都大学大学院医学研究科 助教授、WYSH プロジェクト代表

シンポジスト

第1部

「中高生のエイズ予防教育 / 対策～ WYSH プロジェクト概要～」

木原 雅子 京都大学大学院医学研究科 助教授、WYSH プロジェクト代表

第2部 (シンポジストは一部変更の可能性あり)

「WYSH プロジェクトにおける多角的アプローチ」

1 保護者主体のアプローチ

吉川 泰子 全国高等学校 PTA 連合会健全育成委員長

2 学校ぐるみのアプローチ

今田 雄次 安芸高田市立甲田中学校長

3 地域主体のアプローチ

田井志津子 国際ソロプチミスト小松保健・教育奉仕委員長

4 保健所主体のアプローチ

田崎さえ子 長崎県県央保健所地域保健課専門幹

趣 旨

近年、若者の性行動が早期化、ネットワーク化、無防備化し、10代の人工妊娠中絶の増加、一般の性感染症、HIV 感染も若年者を中心に流行拡大の兆しが現れている。このような状況の中、有効な予防教育 / 対策の開発・実施・普及が緊要の課題となっている。WYSH (Well-being of Youth in Sexual Health) プロジェクトは、各学校、各地域の実情に即したエビデンスに基づくエイズ予防教育を開発普及するために発足したプロジェクトで、昨年より厚生労働省青少年エイズ対策事業として実施されているが、本シンポジウムではその取り組みの概要と事例を紹介する。

申し込み・問い合わせ先 (座席数に限度があるため事前登録必要)

WYSH シンポジウム事務局 : 京都大学大学院医学研究社会疫学分野 担当 岩崎未央子

TEL : 075-753-4350 / FAX : 075-753-4359
